

えるのは、炊事や裁縫といった家の中のことはかりでした。それでも細かい手先の仕事の好きなりんは、会津の城下町でもっとも裁縫のじょうずな娘という評判がたてられるほどになりました。

このように評判のよかつたりんは、十七歳のとき、藩の重臣の海老名季久の子、季昌のところに嫁入りしました。季昌も会津藩の中で将来を期待されたすぐれた才能をもっている人でした。五歳のころから塾で漢学などを学び始めたほどでしたが、八歳のころからは、父が藩の命令で房総半島や蝦夷地（今の北海道）の警備にあたっていたので、父と共に各地をまわって、学問や武芸だけでなく、実地の勉強もしていました。

リンが季昌と結婚したころ、会津藩では、殿様の松平容保が京都守護職を命ぜられていたので、多数の武士が京都に行っていました。夫の季昌も京都に行ったりして活躍していましたが、慶応三年（一八六七年）には、將軍の弟であ